

同窓生の活躍

メイド・イン・オキナワの
吹きガラス文化を伝えたい。

Interview



ガラス工芸作家
斉藤 達也さん（平成4年卒・高44回生）

1973年 嘉穂町（現 嘉麻市）に生まれる
2002年より沖縄にて琉球ガラス「現代の名工」稲嶺盛吉氏に師事
2008年 嘉麻市に築窯「吹きガラス工房 琥珀」創立

吹きガラス工房 琥珀
嘉麻市牛隈1852番地2 TEL:090-3417-2322
<http://kohakuglass.com>



斉藤さんは沖縄で修行後、工房を構えるときに「ゆったりと流れる時間で心が落ち着く」と、生まれ育った嘉穂町（現 嘉麻市）を選び、数々の作品を生み出しています。

琉球ガラスは廃瓶を材料とするため再生の過程で気泡が入ることから本来ならガラス製品としては不良品扱いとなっていました。が現在では素朴な風合いや、優しく馴染む飲み口は琉球ガラス独特の魅力となっています。

自然豊かな環境で命を吹き込まれた作品は温かみにあふれ、ガラスの持つ無機質なイメージを変させる力強さや人間味があります。

◆取材を終えて

東高時代は弓道部の主将で県大会出場も経験。福岡大学時代はホテル日航福岡でアルバイトをしながら、かなり稼いで（笑）いたそうです。卒業後はホテルマンを目指していましたが、自転車で全国を旅しているときに沖縄の琉球ガラスに出会い、名工・稲嶺氏に猛烈にラブコールを続け、沖縄に移り住んでようやく数年かかって弟子入りが出たこと。

地元の酒蔵や飲料メーカーから廃瓶を調達して、その瓶からつくったガラスと冷酒のギフトセットは好評。吹きガラス体験会や県内外で個展やグループ展も定期的に開催。工芸展での入選も重なる。リサイクルやエコではなく、敢えて再生ガラスの風合いにこだわって、文化を継承し続ける素晴らしい同窓生が地元で活躍中です。

企画広報部 伊藤浩之